

## II. 整備計画コンセプトの設定

### 2-1 計画理念

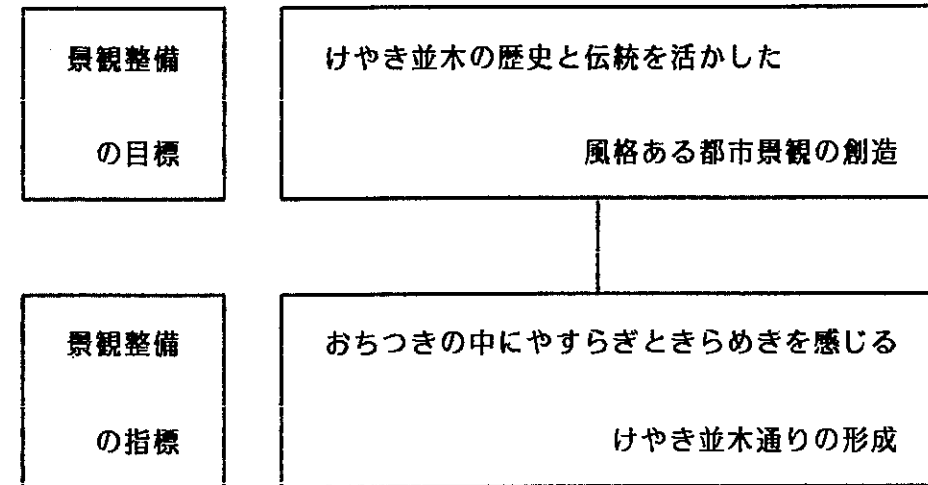
府中の歴史と伝統を代表するけやき並木は、市民に潤いと安らぎを与え、自然と歴史の大切さを四季の景観を通して市民や訪れる人々に伝えている。しかし、今日の急激な都市化は自然環境、社会環境に大きな変化をもたらした。

けやき並木景観整備計画は、けやき並木を保全しながら未来に向けての都市環境の形成を目指すものであり、次の様な考え方に基づく。

- (1)天然記念物馬場大門けやき並木の保全を最優先する。
- (2)歴史と伝統を重視した風格ある景観を考える。
- (3)市民が集い、ふれあうことのできる魅力ある景観を考える。
- (4)歩行者の安全を優先した機能と構造を考える。
- (5)周辺の街並みとの調和や活性化を配慮した景観形成を考える。

以上の景観整備の考え方に基つき、歴史や伝統を背景にこれと調和した府中の文化拠点づくりへ向けて、けやき並木の歴史と伝統を活かした風格ある都市景観の創造を目標とする。

また、この目標に向けて景観整備を進める上での指標として、けやき並木のみどりや歴史・伝統を踏まえ、おちつきの中にやすらぎときらめきを感じるけやき並木通りを景観整備のサブテーマとする。



おちつき：けやき並木や神社などの歴史や伝統という背景をイメージする

やすらぎ：けやき並木のみどりを表現する

きらめき：未来へ向かっての府中の文化拠点づくりをイメージする

## 2-2 整備方針

長い時間の中で培われたけやき並木のみどりと歴史の修景をさらに美しい姿で保全することは、訪れる人々に潤いとやすらぎを与え、文化の香りとふるさとの原風景として将来欠くことのできない存在となるろう。

このような視点から、景観整備に当たっては次のことに配慮する。

- (1)ケヤキを主体とした自然の姿で保全する。
- (2)歴史と文化を感じ、伝統的なイメージを持ち合わせた修景で、おちつきある景観を創造する。
- (3)車両通行を抑制し、安全で快適な環境の歩行者空間を創造する。
- (4)人々が集い、潤い、やすらぎ、しかも楽しむ情景を創造する景観とする。
- (5)周辺の建物の形態、色彩等をけやき並木の景観と一体的に調和するデザインに誘導する。
- (6)中心市街地の活性化に役立つ景観を創造する。

上記の整備の視点に基づき、けやき並木景観整備の方針を設定する。

